

令和3年度 東京都内湾水生生物調査 5月鳥類調査 速報

●実施状況

令和3年5月14日に鳥類調査を実施した。天候は晴れで、気温23.3～25.9℃、無風～南の風、風速0～3.5m/secであった。調査当日は大潮で、干潮が12時22分(13cm)、満潮は19時00分(179cm)であった(気象庁のデータ)。各地点の概況を下表に示す。

	お台場海浜公園	森ヶ崎の鼻	葛西人工渚(東なぎさ)
作業時刻	10:19-11:31	11:55-12:43	14:04-15:13
天候	晴	晴	晴
気温(℃)	23.3	24.0	25.9
風向	-	-	南
風速(m/sec)	0	0	3.5
備考	海浜公園側に人の立ち入りはなかった。	干潟付近にパドルボート一隻が立ち入る。	ヨシ原でオオヨシキリがさえずっていた。ヨシの生育範囲が拡大。

●主な出現種等

	お台場海浜公園	森ヶ崎の鼻	葛西人工渚(東なぎさ)
数が多かった 鳥類上位2種	カワウ(859羽) キョウジョシギ(49羽)	キョウジョシギ(22羽) カワウ(12羽)	アジサシ(229羽) ウミネコ(171羽)
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重要種として、オオタカなど、8種を確認。</li> <li>・カワウの巣数は第六台場188巣、鳥の島20巣。巣内に雛や幼鳥が見られたほか、営巣地や岩礁で幼鳥を確認。</li> <li>・サギ類の巣は確認できなかった。アオサギは第六台場の林内で幼鳥を確認した。</li> <li>・岩礁でキョウジョシギとキアシシギ、イソシギが観察された。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重要種として、メダイチドリ、コアジサシ、ミサゴなど、12種を確認。</li> <li>・コアジサシは干潟付近を飛ぶ2羽を確認したのみ。隣接する森ヶ崎水再生センターでは5/8時点でまだ営巣が始まっていない。</li> <li>・護岸付近でコチドリとキョウジョシギ、キアシシギ、チュウシャクシギ、干潟でメダイチドリが採餌。</li> <li>・干潟や浅瀬でサギ類とウミネコが採餌、カワウが休息。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重要種として、チュウサギ、ヘラサギ、シロチドリ、オオソリハシシギ、ホウロクシギ、ハマシギ、オオセグロカモメ、コアジサシなど、21種を確認。</li> <li>・14種のシギ・チドリ類が確認され、多くの種が干潟で採餌。</li> <li>・干潟の汀線付近でアジサシとコアジサシの群れが休息。ウミネコとカワウも休息。</li> <li>・干潟でサギ類とヘラサギが採餌。</li> </ul>

●出現種と個体数

No.	目	科	種名	令和3年 5月						重要種 選定基準					
				お台場海浜公園				森ヶ崎の鼻	葛西人工渚(東なぎさ)			文化財 保護法	種の*1 保存法	環境省*2 RL 2020	東京都*3 RL 2020 (区部)
				第六 台場	鳥 の 島	公 園 側	合計		範囲 内	沖合	合計				
1	カモ	カモ	カルガモ		10		10	2							
2			スズガモ			1	1							留	
3	カツオドリ	ウ	カワウ	678	170	11	859	12	106	5	111				
4			ウミウ	1			1								
5	ペリカン	サギ	アオサギ	9	12		21	7	1		1				
6			ダイサギ	1			1	4	12		12			NT	
7			チュウサギ						1		1		NT	NT	
8			コサギ	1	1	3	5	4	8		8			VU	
9		トキ	ハラサギ						1		1		DD		
10	ツル	クイナ	オオバン					3						CR	
11	チドリ	チドリ	ムナグロ						4		4			VU	
12			ダイゼン						1		1			VU	
13			コチドリ					2						CR	
14			シロチドリ						3		3		VU	CR	
15			メダイチドリ					1				国際		VU	
16		ミヤコドリ	ミヤコドリ						25		25			VU	
17		シギ	オオソリハシシギ						1		1		VU	EN	
18			チュウシャクシギ					3	11		11			VU	
19			ダイシャクシギ						2		2			CR	
20			ホウロクシギ						2		2	国際	VU	CR	
21			アオアシシギ						18		18			NT	
22			キアシシギ			3	3	2	17		17			VU	
23			ソリハシシギ						1		1			VU	
24			イソシギ		4	1	5	3	1		1			VU	
25			キョウジョシギ	28		21	49	22	5		5			VU	
26			ハマシギ						5		5		NT	VU	
27		カモメ	ウミネコ			1	1	11	171	26	197			留	
28			セグロカモメ						1		1				
29			オオセグロカモメ						4		4		NT		
30			コアジサシ					2	85		85		VU	EN	
31			アジサシ						229	3	232				
32	タカ	ミサゴ	ミサゴ					2					NT	EN	
33		タカ	オオタカ		1		1						NT	EN	
34	スズメ	セキレイ	ハクセキレイ						1		1				
計7目12科34種				6種	6種	7種	12種	15種	26種	3種	26種	0種	2種	10種	25種

※種の分類・配列は「日本鳥類目録 改訂第7版」(日本鳥学会, 2012)に従った。

\*1種の保存法 国際:国際希少野生動植物種 国内:国内希少野生動植物種

\*2環境省レッドリスト2020 CR:絶滅危惧IA類, EN:絶滅危惧IB類, VU:絶滅危惧II類, NT:準絶滅危惧, DD:情報不足

\*3東京都レッドリスト(本土部)2020年度版 CR:絶滅危惧IA類, EN:絶滅危惧IB類, VU:絶滅危惧II類, NT:準絶滅危惧, DD:情報不足, 留:留意種

<お台場海浜公園>

○調査地点の状況

第六台場と鳥の島でカワウが繁殖中。



○出現種(カワウ)

第六台場で 188 巣、鳥の島で 20 巣、合計 208 巣が確認された。第六台場では目視できただけで巣内に 15 羽の雛が確認されたほか、大きく育った幼鳥も見られた。第六台場の護岸や樹林、鳥の島では巣立った幼鳥が多く見られ、繁殖は終盤と思われた。



カワウの成鳥と巣内の雛 (矢印)



大きく育ったカワウの雛

○出現種(アオサギ、ダイサギ、コサギ)

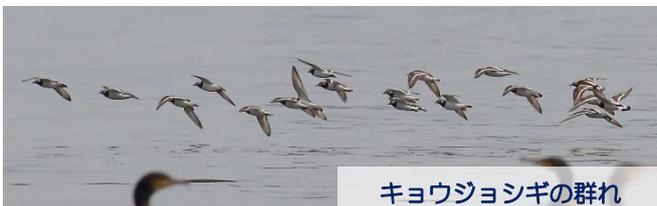
3 種のサギ類が第六台場の林内を出入りするのが観察されたが、営巣は確認できなかった。また、アオサギは頭部に幼綿羽の残る幼鳥が観察されたが、巣立ち後ある程度の期間が経過した個体であり当地で繁殖した個体かは不明である。ダイサギとコサギは成鳥のみ確認された。コサギは目先にピンク色の婚姻色が出ている個体であった。



婚姻色が出たコサギ

○出現種(シギ・チドリ類)

キョウジョシギ、キアシシギ、イソシギが鳥の島周辺の護岸や岩場で採餌のほか、キョウジョシギが群れで海上を飛ぶのが観察された。3 種とも東京都レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類(VU)に指定されている。



キョウジョシギの群れ

○出現種(オオタカ)

成鳥 1 羽が鳥の島の護岸に降りていた。本種は環境省レッドリストで準絶滅危惧(NT)に、東京都レッドリストで絶滅危惧ⅠB 類(EN)に指定されている。



## <森ヶ崎の鼻>

### ○調査地点の状況

最大干潮時刻で、干潟が広く干出していた。



### ○出現種(シギ・チドリ類)

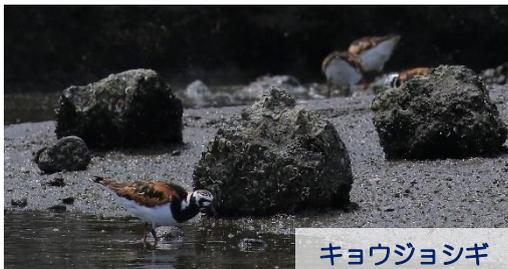
メダイチドリ 1羽が干潟で採餌、コチドリとキアシシギ、キョウジョシギ、チュウシャクシギが護岸や岩場の周辺で採餌していた。メダイチドリは種の保存法で国際希少野生動植物種および東京都レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類(VU)に指定されている。コチドリは東京都レッドリストで絶滅危惧ⅠA類(CR)、キアシシギ、キョウジョシギ、チュウシャクシギは絶滅危惧Ⅱ類(VU)に指定されている。



メダイチドリ



キアシシギ2羽とキョウジョシギ (矢印)



キョウジョシギ



コチドリ



チュウシャクシギ

### ○干潟利用状況

干潟ではカワウの小群が杭の上で休息、アオサギとダイサギ、コサギ、ウミネコが汀線付近や浅瀬で採餌していた。コアシサシは2羽が浅瀬で採餌していた。ダイサギは東京都レッドリストで準絶滅危惧(NT)、コサギは絶滅危惧Ⅱ類(VU)、コアシサシは環境省レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類(VU)および東京都レッドリストで絶滅危惧ⅠB類(EN)に指定されている。NPO 法人リトルターン・プロジェクトによれば、5月16日の調査で森ヶ崎水再生センターにおけるコアシサシの営巣は確認されていない。

<https://littletern.hatenablog.com/archive/2021/05/16>



ダイサギ

コサギ

ウミネコ



魚を捕らえたコアシサシ

<葛西人工渚>

○調査地点の状況

干潟が干出し、沖合の三枚洲はわずかに干出していた。



○出現種(シギ・チドリ類)

14 種のシギ・チドリ類が干潟で採餌していた。確認種はすべて東京都レッドリストに掲載されており、加えてホウロクシギが種の保存法で国際希少野生動植物種、シロチドリとオオソリハシシギ、ホウロクシギが環境省レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類(VU)、ハマシギが環境省レッドリストで準絶滅危惧(NT)に指定されている。



○干潟利用状況

干潟でアジサシとコアジサシ、ウミネコ、カワウの群れが休息していた。また、汀線付近や水たまりでサギ類やシギ・チドリ類が採餌していた。



<その他>

○ウミネコの繁殖

平成 27 年度 6 月の調査で運河の構造物上でウミネコの繁殖が確認された。今回の調査では成鳥と若鳥合わせて 55 羽が確認され、そのうち約 15 羽が営巣中と考えられた。構造物上を確認したところ、草を敷いて造られた巣の中に 2 個の卵があった。



<トピックス>

東京都レッドリスト改訂

東京都のレッドリストの改訂版、『東京都レッドリスト(本土部)2020 年版』が令和 3 年 4 月 15 日に報道発表された。<https://www.metro.tokyo.lg.jp/tosei/hodohappyo/press/2021/04/15/09.html>

鳥類の掲載種は 162 種(160 種+2 亜種)、新規掲載が 10 種、削除種が 10 種である。本調査の対象種として、ホシハジロ(VU)、ハジロカイツブリ(NT)、ゴイサギ(VU)、ウミネコ(留意種)が新たに加わった。一方、アメリカヒドリ、オオヨシゴイ、タゲリ、オオハシシギ、ヒバリシギ、ウズラシギがリストから除外された。



新たにレッドリストに掲載された対象種。ホシハジロ(左上)、ハジロカイツブリ(右上)、ゴイサギ(左下)、ウミネコ(右下)。写真はすべて過年度調査で撮影したもの。